

宮廷乃雅-きゆうていのみやび【2015 年度新作雛人形】有職
節句人形工芸士 小出松寿作、宮廷の雅、有職の親王飾りです。
(参考)サイズ:間口 81 × 奥行 42 × 高さ 40(cm)

■小出松寿(しょうじゅ)

本名「小出康雄」。人形師である母「小出 愛」のもと人形製作を始め、昭和 48 年二世を継ぎ「松寿」と名乗る。平成 3 年、大阪工芸展において「近畿通商産業局長賞」を受賞。平成 13、14 年、日本人形協会節句人形工芸士展において「優秀賞」受賞。その他数々のコンクールで入賞をはたし、名匠としての地位を確立する。
小出保三(通称名:小出康雄) (二世 小出松寿)

節句人形工芸師 小出 松寿
昭和十八年、大阪に生まれる。母・小出 愛に師従し教えを受ける。
昭和四十八年、二代目の襲名に伴い「小出松寿」を名乗り、市松人形、雛人形など幅広く数々の人形制作に取り組む。
・昭和六十年「文部大臣賞」受賞
・平成三年 近畿通商産業局「局長賞」受賞
日本人形協会「会長賞」受賞
節句人形工芸「優秀賞」受賞
・他多数受賞

「日本古来の伝統に現代の感性を巧みに織り込み、日本文化を鮮やかに表現したい。」という想いが、小出 松寿の飽(あ)くなき創作意欲の源泉です。素材の一つひとつに吟味を重ね、昔ながらの伝統技法を駆使(くし)してつくり上げる作品には、定評があります。

実際の工程では腕(かいな)曲げ、などの仕上げを行っている。

<https://www.youtube.com/watch?v=fH3Z00XcVFA> インタビュー

■有職織物(ゆうそくおりもの)とは
格式、材質どれをとっても人形業界最高峰。別格。
有職織物は、平安時代以来、宮廷/朝廷をはじめ公家階級に用いられた装束や調度などに使われた模様の織物です。綾、浮織物、二倍織物、錦、穀、紗などの種類があります。
奈良時代に唐より伝来した織物が、色調や文様が日本人好みに和様化されて、公家の装束や調度品に用いられたものが有職織物です。織りで文様を表し、幾何学的な構成の繰り返しが特色、いずれも上品な味わいを漂わす最も日本的な織物です。文様についても、中国、インドなどの影響を受けています。
有職とは有識を意味し、学識豊かであることを意味していました。儀式や典礼、行事、官職、階位、調度、服装、遊宴などに関する知識が深いこと、博識であるという意味です。そのような行動規範に詳しく、また律されていた公家たちの法式にかなうものとして、材質や色彩、文様などが定まった織物は、他の織物と区別するため、「有職織物」という呼び名ができました。
宮廷の儀式用の服飾や、新刊の式服、神宝、袈裟により伝えられ、現在に至る有職織物は日本の織物美といえます。現在では上品で洗練された、格の高い織物として、帯地などに写され、一般の眼に触れる機会もできるようになりました。

●歴史等
・三月初めの巳の日(上巳の節句)、草や紙、木で作った、人の形をした人形(ひとがた)に、自分の厄や災いを移して、川や海に流した「**流し雛**」という行事がありました。それと、平安時代に宮中で行なわれていたと言われる、お人形遊び(**ひいな遊び**)とが結びついたのが、現在の「ひなまつり」です。雛人形には、生まれたばかりの子が、災い
を避け健やかに育ちますように、という願いが込められています。
・お雛様は**赤ちゃんの守り神**です。神様をまつてある神棚がケースに入っていますか？ 入っていませんね。
神棚をケースに入れられないのと同じように、守り神の雛人形をガラスケースに入れてはいけません

●全体
・大きく分けて、「**衣装着**」「**木目込(きめこみ)**」

●お雛様
・頭(かしら)
- **桐塑頭**(とうそがしら)・練頭(ねりがしら) > **本頭**(ほんがしら)・**石膏頭**(せっこうがしら)
- 生え際の筆書き部が雑でないか？
- **額櫛**(ひたいぐし) 効果なものは**木櫛(きぐし)** プラスチックに金メッキしたものは廉価品。高級品になると本つげに**手書き絵**が施されているものもある。
- 髪の毛は絹。ナイロンなど合成繊維のものは廉価品(テカリが強い)。
- 口の中もきちんと彫ってあること。お歯黒のものもある。
- 著名なのが、(河瀬)**猪山**(ちよざん)、次に(藤澤)**瑞馨**(すいけい)、その次が(河瀬)**健山**といわれる。
・胴体は、虫のつきにくい**桐木胴**(きりもくどう) 硬いクスノキを挟んで、そこに針金を通して腕とする(松寿 特許)
・衣装素材
- **正絹**(しょうけん:シルク=蚕糸)…経年で色褪せてくる(味が出てくる)
化繊(かせん)…美しい輝きがあり、経年に強い。ゴアゴア感あり。
有職織物…上記参照
- **絵羽(えは)あわせ**(柄合わせ)していないものは廉価品。
・**十二単**
十二単というが、十二分に着る、ということだそう。
「有職故実」では 5 枚(時代によって既婚者は 6 枚)のかさねと定められています。
5 枚より 6 枚が高級という訳ではなく、どの時代に合ったかの違いです。
実物をミニチュア化したものが BEST(実際の着物の形になる)。**仕立て**そのものを見るのがポイント。
全体の構成は、「**唐衣**(からぎぬ)・**表着**(うはぎ)・**打衣**(うちぎぬ)・**五衣**(いつつぎぬ)・**単衣**(ひとえ)・**長袴**(ながばかま)・**裳**(も) かななり、背面の一番上は**裳袴**(もばかま:背面のひらひら生地で作家物の名前が入るもの)。
十二単は、**長袴**→**単衣**(ひとえ)→**五衣**(いつつぎぬ)→**打衣**・**表着**(うはぎ)→**唐衣**(からぎぬ)→**裳**の順で着装していきます。
肩から掛けているのは「**掛帯**(かけおび)」。後ろに伸びる2本の飾り紐は**引腰**。
・**本着せ**は究極の最高級品。対して胴体が上下に分離する**並着せ**(襟が腹前で重なっている)がある。(平安天鳳作の特許?)
「本着せ」は制約が多い分、よほどの腕前の人でなければ「セパレート」よりもきれいに見せることができないそうです。
・「ハギ(矧ぎ)」というのは、後から見て裾の仕立てが幾つものパーツから出来ているかで見分けます。
五条の縦縫いがあれば「**六枚矧(はぎ)**」で、ラインが美しく見える。
・袖、裾の表地・裏地が別生地になっているか。**(袋縫い)**ではなくただし、一番内側の単衣(ひとえ)の袖はもともと裏地が無い部分なので別。
・後ろから袖の中を見て、五衣が縫い仕上っているか？ 短くないか？
・裳(も)は、折り目が放射状に、四箇所に入っていたり、縫い合わされているか？ サイド/エンドは折り返し糊付け/縫いされているか？
・足元の裾が前側に三角に切り落とされているだけで、後ろに回り込んでもないものは廉価品。
・左前に**長袴の腰ひも**の端が見えるように作りこんでいるか？ (作家によってはつけない場合もある)
・手にしているのは**檜扇**(ひおうぎ)。材質は檜(ひのき)。これもカンペ。
昔の貴族の女性は、むやみやたらに他人に顔を見せないことがたしなみでしたので、この扇は他人の視線から顔を隠す為にも欠かせないものでした。
なので顔を隠すためのこの扇、大翳(おおかざし)とも呼ばれます。

●お内裏様(男雛は背中で語る?) 男子服 『**束帯**(そくたい)』
・「**黄櫨染御袍**(こうしぜんのごほう)」とは黄色の中に赤色を混ぜた色で今の黄土色に近い色で桐、竹、鳳凰、麒麟の紋様が編みこまれている有職文様。
天皇が即位式など重要な儀で着用。最上の位の人なので、地位の高いパートナーに恵まれるようにとの願いあり。
皇太子用は**黄丹**(おうたん/おうに)とともに**絶対紫色**。

- ・(拝み)脚がついているか？**襦**(しとうず: 指が分かれていない足袋)をはいているか？袴の**腰ひも**(赤い囲みあり)が下側回ってるか？
- ・胸元に**帖紙**(たとう)が差し込んであるか？これは、さまざまな用をなす懷紙が儀礼用に变化したものの。
- ・しゃく【**笏**/勺】; 右手に持つ細長い板。
もとは備忘のため笏紙(しゃくし)をはるためのものであったが、のちにはもっぱら威儀を整える具となった。木や象牙で作る。
長さが1 尺ほどであるところから「尺」の音を借りて当てたもの。
- ・刀は抜けるか？
- ・**石帯**(せきたい)**魚袋**(ぎょたい)がついているか？
- ・**下襲の裾**(しもがさねのきよ)(背中中央の帯)高級品は刺繍。身分が高ければ長い。
石帯には飾りがついているか？牛皮は殺生を伴うので普通は使わない。もともとは下襲の裾の下に隠れているもの。これ見よがしに見えるものが多い。
魚袋は宮中に入る時の身分証明書。
- ・頭には冠。纓(えい)が直立しているものを**立纓**(りゅうえい)といい天皇のみ使用可。
垂れ下がっているのは**垂纓**(すいえい)といい他の皇族が使用。通常は烏帽子(えぼし))

- 屏風
- ・正式には**六枚折れ**で、二組が一对となっている。対して**三曲の板屏風**。
- ・災いを跳ね返す役目、金箔が王道。**金沢箔**(金箔)は継ぎ目があり、まだらなところがある。鈍い輝き。

- 敷物
- ・**毛氈**(もうせん)…飾り台に引く赤い敷物
毛氈の裾模様は、**纏綱模様**(うんげん)と呼ばれています。

- 作札**(さくふだ)/木札
- ・飾られる木札/作札(さくふだ)はほとんど**着付師**の作家名もしくは組み上げた工房名が入る。従って、作札の記載が同じでも頭(顔)は色々。
ただし、著名な頭(かしら)師の場合は、木札/作札(さくふだ)にも名前があるものもある。
高価なのが(河瀬)**猪山**(ちようざん)、次に(藤澤)**瑞馨**(すいけい)、その次が(河瀬)**健山**といわれています

- お飾り
- ・中央の花飾りは「**三宝** おさんぼう」と呼ばれています。一般的には、三宝に**瓶子**(へいし)が載っていて、その瓶子に水引で飾られた**熨斗**(のし)が差してあります。熨斗には紅白梅の花がついています。
- ・左右に飾られる花は、**桜と橘**の組み合わせと**紅白梅**がある。これは、京都御所内で天皇の即位、元服、立太子、節会など、最重要の公的儀式が執り行われた建物である**紫宸殿**(しいでん)の前に、**応仁の乱で焼失**するまではお庭に紅白梅が植えられており、再建された後は桜橘が植えられたことに由来するといわれています。向かって右に桜、左に橘を飾るのが雛飾りのしきたり。「**右近の橘、左近の桜**」とも呼ばれます。
- ・飾りものはひし餅が一般的で木製。プラスチックな廉価品。**絵巻物**のほうが上等(?)。土の物と食べ物と同じ高さに並べるのは非常識(?)。
- ・台は、**猫脚**となっているほうが上等。

- 灯籠
- ・灯籠の**火袋**(ひぶくろ)は桃の**つぼみ型**(下窄み)よりも**京型**(丸い)もののほうが高価(???)。お祝い事には前者。**菊掘りの脚台**の物が高価とされる。

http://www.epochtimes.jp/jp/2012/05/print/prt_d82504.html 一番下の写真
<http://www.koubou-shouju.com/index.html>
<http://item.rakuten.co.jp/komari/11-sh215/>
http://www.12danya.co.jp/t_3kazari/sinnou/90hmt8sh06.html
<http://www.takashimaya.co.jp/store/special/hina/> タカシマ屋

http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1479406564 伝統工芸士と節句人形工芸士はどちらが格が上

http://www.12danya.co.jp/t_3kazari/erabu3/tono.html 雛人形の選び方【お勧め】
(http://www.12danya.co.jp/t_5kazari_erabu.html)←兜
<http://www.tenhodo.co.jp/archives/index.html> 収納等もある。目利き入門…有職が最上級の説明あり。【お勧め】
<http://www.ryuwadou.co.jp/point02.html>

<http://allabout.co.jp/gm/gc/198043/>
<http://allabout.co.jp/gm/gl/21162/>
<http://mbp-kobe.com/hukujungo/column/3416/>
<http://www.sekku-world.com/3rdh-point.htm> お雛様を見分けるコツ
http://www.tenhodo.co.jp/products/hina_yusoku.html 有職雛
<http://www.ryuwadou.co.jp/point03.html> 本着せ品と並着せ品の説明
<http://www.onishi-doll.jp/ohinadougu.html> 道具類
<http://blogs.yahoo.co.jp/wgmpapa/2255751.html> 清水久遊
<http://www.kariginu.jp/> 有職織物柄名
<http://shouju.sblo.jp/> 松寿ブログ
http://www.geocities.jp/tensinosasayaki_1969/ougi/ougi.htm お雛様が持つ扇について